



説教要旨「あなたはわたしの愛する子」

マタイによる福音書3章13～17節

悔い改める必要のない救い主が、悔い改めの洗礼を受ける。それは私たちの目には無意味で、不必要に見えます。さらに言えば、イエス様が洗礼者ヨハネから洗礼を受けることによって、周囲からヨハネの弟子として見なされかねないという意味で有害にすら思えます。洗礼者ヨハネが、イエス様に洗礼を授けることをためらったのはそういった思いからでしょう。しかしそれが「正しいこと」だとしてイエス様は悔い改めの洗礼を受けられました。

私たちは“悔い改め”を迫られてなお、「自分に罪が全くないとまでは言わないけれど、それなりに誠実に生きてきたし、自分はそこまで切迫してはいないだろう。」などと高を括り、ろくでもない人を見ては、「自分はある人よりもよっぽどましだ。」「あんな人を差し置いて、どうして自分が悔い改めなければならないのか。」などと暢気に構えています。

しかし、もはやそんな言い分は通用しないのです。何故なら、どう考えても悔い改める必要のないイエス様が、私たち罪人と同じところにまで下って来て、悔い改めの洗礼を受けられたからです。人としてこの世に来られた神の子、救い主が、悔い改めの洗礼を受けることが正しいことであるならば、この世界に悔い改める必要がない者など一人もいないのです。

そして洗礼を受けたイエス様が水から上がると、天が開き、神の霊が鳩のように降り、「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」(17節)と言う声が響きます。ここからイエス様の、神の子としての歩みが始まるのです。その歩みは、自らの栄光を求めるような歩みではなく、孤独で、惨めな、十字架へと続く歩みです。

私たちがイエス様の弟子として歩む道も同じです。悔い改めの洗礼を受けることで、救いが完成するのではなく、そこから神の子としての歩みが始まっていくのです。その道を歩むなかで、時に孤独を感じ、惨めさに打ちひしがれこともあるかもしれませんが、しかしそれこそが、イエス様が歩まれた道です。悔い改めつつ、その道を歩みだすとき、そこに天からの声が響き渡ります。「あなたは私の愛する子」と。